

付加価値測定の「生産性本部方式」

JPC 70th

クロニクル

第11回

chronicle

シンクタンク創設

■生産性の概念と定義

研究所には、「生産性測定配分」「雇用」「市場分析」「流通」「工

生産性運動のシンク

タンクとして日本生産

性本部は1956年4

月、本部内に生産性研

究所を創設した。所長

は戦後、政府の経済安

定本部生産局長・副長

官などを務めた成蹊大

学教授の野田信夫。研

究所には、「生産性測

定本部生産局長・副長

官などを務めた成蹊大

学教授の野田信夫。研

究。生産性運動を進め

る上で、最も重

要な理論的支柱

となった。

つ、「成果の公正な分

配」を柱に、生産性の

概念と定義、生産性測

定の技術的方法を研

究。生産性運動を進め

究。生産性運動を進め

る上で、最も重

要な理論的支柱

となった。

究。生産性運動を進め

究。生産性運動を進め

る上で、最も重

要な理論的支柱

となった。

究。生産性運動を進め

究。生産性運動を進め

る上で、最も重

要な理論的支柱

となった。

究。生産性運動を進め

究。生産性運動を進め

る上で、最も重

要な理論的支柱

となった。

究。生産性運動を進め

究。生産性運動を進め

る上で、最も重

要な理論的支柱

となった。

究。生産性運動を進め

究。生産性運動を進め

る上で、最も重

要な理論的支柱

となった。

究。生産性運動を進め

究。生産性運動を進め

る上で、最も重

要な理論的支柱

となった。

究。生産性運動を進め

究。生産性運動を進め

る上で、最も重

要な理論的支柱

となった。

究。生産性運動を進め

究。生産性運動を進め

る上で、最も重

要な理論的支柱

となった。

究。生産性運動を進め

究。生産性運動を進め

る上で、最も重

要な理論的支柱

となった。

究。生産性運動を進め

究。生産性運動を進め

る上で、最も重

要な理論的支柱

となった。

究。生産性運動を進め



「生産性の測定」第1巻は三分冊で発行された（1956年）。

る上で、最も重

要な理論的支柱

となった。

究。生産性運動を進め

■理論的基礎づ

けが緊急課題

「生産性の測

定」第1巻は56

年6月から8月

にかけて三分冊

で発行された。

冒頭「海外生産

性参考資料発行に当つ

て」で、日本生産性本部

企画部は「わが国にお

ける生産性向上運動の

発展にともなつて、最

近その理論的基礎づけ

が緊急の課題となつて

きた。しかし特に専門

的な分野にわたる理論

的研究となるときわめ

て乏しい実情にある。

当本部は、この欠を幾

分でもおぎなうため社

会主義国をふくむ海外

諸国の生産性にかんす

る専門文献を翻訳、活

版による刊行物とは別

個に、逐次刊行するこ

とにした」と記した。

同本部生産性研究所

は「このたび、生産性

研究所の設立にともな

い、旧企画部名で行つ

ていた、海外生産性参

考資料の刊行は、当研

究所が引きつぐことに

なつた。刊行の体裁お

よび編集の方針は従来

通りである」と続けた。

研究所は「生産性の

概念」「生産性測定の

事例」「国民経済的に

みた生産性」に関する

三つの報告書を作成。

その後、研究所は「現

代における経営の理念

と特質」と題した報告

書の発表、「季刊生産

性統計」の創刊（58年

6月）、「労働生産性

統計月報」の発行（63

年7月）と活動の幅を

広げ、65年3月には、

『付加価値分析と生産